

- (1) 同志社女子大学を志望校・受験校と決めた理由。

高校在学時に新島八重先生が私の母校に来られたという話を聞いており、同志社女子大学に大変親近感を持っていました。オープンキャンパスに行った時は学生が同志社女子大学の生徒であることに誇りを持っていました。ここなら最高の6年間になりそうだと思う。志望校にしました。

- (2) 一般入試対策としての受験勉強の進め方について。

〔1学期〕学校、塾から帰って夕食を食べた後はどうしても寝てしまて勉強できないのが悩みでした。そこで私はカウンターの所に立って勉強しました。化学はまだ全て覚えていなかったのでも演習に進めない分、学校で習ったものを早く身につけるようセミナーを使って復習しました。特に脂肪族と芳香族は暗記に加え、独特の考え方に慣れるのに時間がかかったのでも何度も復習をくり返しました。基礎楚の反復は地道でおもしろくないです。しかし、ここを徹底するかしないかが公募推薦の可否の分け目になると思います。辛抱しましょう。

〔夏休み〕夏休み頃から同志社女子大学の英語の過去問をやり始めました。長文の穴埋め問題に苦戦しました。文法力、単語力、前後から話の流れをつかみ推測するか、どれか一つでも欠けていると突破できません。地道に文法、単語の復習をすると同時に何度も過去問をして慣れましょう。先生に質問に行く機会も増えると思います。その時は先生の言葉を手帳にメモして忘れないようにしていました。入試中、その言葉を思い出してピンチを切り抜けた瞬間は何度もありました。どれだけ模試の結果が悪くて落ち込んでいても、自分が第一希望の大学に合格して通っている姿をイメージし、希望を絶やさず努力して下さい。そしてそれが現実のものになると思います。

〔2学期～入試直前〕公募推薦入試で同志社女子大学には受かるだろうと思っていましたが、わずかに5点足りずで不合格になりました。今思えば「基礎楚の詰めが甘かったです。セミナーのできない問題は5問以下にするべきです。そして一般入試の時は以下のことを心がけました。まずみんなが取れるものを確実に取ることです。確かな難問を解く力も必要ですが、それはかりに気をとられて基礎問題の点を落としていると合格点に届かなくなります。そして、入試においては一点でも多く取ることが正義です。本番で初めて出会うような知らない問題もあります。しかし、見たことがないから分かりません。ではなく今まで努力してきた中で一番近いものは何か考えてみて下さい。自分が積み重ねてきたものが正しければきっと正解が選べると思います。最後の1秒まで必死に食らいついて下さい。何かきっかけで合格するか分かりません。だからこゝ、最後の最後まで頑張り抜いて下さい。

- (3) この一年間の受験生活において、受験勉強と高校の行事やクラブ活動の両立、健康面での注意、テレビやスマートフォン等との付き合い方、スランプとその対処法について。

成績が伸び悩んでスランプに陥るのはしかたがないです。しかし、他人と自分を比較したりして無意味に気分を落とすのは不要なスランプなのですぐに手放しましょう。公募推薦で落ちている私は一般では絶対に失敗できないと思っていたので、一般前の一週間はおまりにも不安で少しでも分からない問題に出会うと、「私は同志社女子大学に落ちるのでは?」と思い手が震えてそれ以上何も考えられなくなりました。そこで私は落ち着く香りのハンドクリームを塗って、先生に「大丈夫」と書いてもらった紙を机に置くことで不安はかなり改善されました。不安や焦りは恥ずかしいものではありません。決して我慢せず信頼できる人に話してなるべく早く気持ちを回復させて下さい。そして少しでも充実した勉強時間を確保して下さい。

- (4) 受験を終えて、受験生のみなさんへのメッセージ。

できない自分につき合うのは本当につらいです。しかし自分の足りない部分を自覚し、それを克服するために努力していることは必ず合格へと導いてくれます。すぐに結果が出なくても、自分のしていることが本当に合っているのか不安になっても気にせず淡々とこなして下さい。最後に勝つのは「私はもうこれ以上頑張れない!」という一日を積み重ね、決して諦めない人です。第一志望校を志す希望に満ちあふれた自分を忘れないで下さい。自分のためにも、応援してくれる、周りの大切な人のためにも一生懸命頑張ってください。